



2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年2月8日

上場会社名 株式会社カーチスホールディングス
コード番号 7602 URL <http://www.carchs-hd.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 取締役兼代表執行役社長 (氏名) 長倉 統己

問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部課長 (氏名) 高橋 英知

TEL 03-3239-3185

四半期報告書提出予定日 2023年2月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	13,390	10.3	245	—	226	—	265	—
2022年3月期第3四半期	12,136	14.3	104	—	98	—	132	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 249百万円 (—%) 2022年3月期第3四半期 131百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	12.83	—
2022年3月期第3四半期	6.43	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第3四半期	6,760	5,164	73.7	240.50
2022年3月期	7,626	5,445	69.2	255.14

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 4,981百万円 2022年3月期 5,273百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	2.00	2.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,000	8.8	480	138.3	480	124.4	380	—	18.38

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年3月期3Q	24,087,009 株	2022年3月期	24,087,009 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2023年3月期3Q	3,374,829 株	2022年3月期	3,416,891 株
------------	-------------	----------	-------------

期中平均株式数(四半期累計)

2023年3月期3Q	20,693,546 株	2022年3月期3Q	20,670,440 株
------------	--------------	------------	--------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日）におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症に対する各種政策の効果もあり、景気が持ち直していくことが期待されます。しかしながら、世界的な金融引締め等が続いており、海外景気の下振れにより我が国の景気を下押しするリスクがあります。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響や中国における感染動向にも注意する必要があります。

当社グループが属する自動車業界においては、新車登録台数は、約258万台（軽自動車含む、乗用のみ、貨物・バス除く）となり、前年同期比で4.1%の増加となりました。また、中古車登録台数は、約376万台（軽自動車含む、乗用のみ、貨物・バス除く）となり、前年同期比で4.2%の減少となりました（出典：一般社団法人日本自動車販売協会連合会、一般社団法人全国軽自動車協会連合会）。

このような環境の中で当社グループは、既存事業である「自動車流通事業」においては、『顧客ファースト』のスローガンのもとに、お客様と直接取引する買取直販を積極的に推進しているものの、創業以来のビジネスモデルでもある買取オークション売却において、オークション相場の低迷により粗利率が下がっております。

一方で、保証やメンテナンスパッケージなど多様化するお客様のニーズに対応するサービスを強化することにより付帯収益を向上させ、納車後のお客様との取引を継続的にを行い、生涯顧客価値を高める目的から、車検や保険などのアフターサービスの充実を図っております。

また、SNSの積極的な活用や、インターネット媒体への掲載取組強化、価格の見直し等により展示車両を充実させております。

このため、販売車両における粗利改善は確実になされており、今後は、販売力の一層の強化のために、営業拠点35カ所の資本効率を重視したスクラップ&ビルドを行うとともに、当社の強みである業販ネットワークのカーチス倶楽部加盟店22,000社の積極活用を踏まえた事業構造の転換を図ることで収益力を強化してまいります。

海外関連におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響が回復傾向にある中で、アジア・オセアニア・アフリカ等、諸外国との輸出取引の動きが増えてきております。

また、国内中古車輸出企業との業務提携により、海外向けの在庫の拡充及び輸出販路の拡大を進めるとともに、中古農機具のテスト販売などの新たな取り組みも開始しております。

中国に設立いたしました合弁会社である青島新馳汽车有限公司につきましては、新型コロナウイルス感染症回復後の業績拡大に向けた体制整備を進めており、モンゴル、EU諸国等への輸出を開始する計画が、当第4四半期以降に動く見込みとなっております。

「カーチスファン드를活用したリースバック関連事業」においては、金融機関、大手物流業者との連携及びカーチス倶楽部会員を通じた運送事業者等への事業の認知度向上も進んでおり、商用車関連の取り扱いを強化するとともに、リースバックのみならず商用車の買取・販売にも注力することで、今後の業績向上を見込んでおります。

販売費及び一般管理費につきましては、各科目の見直しによる経費削減を継続的に行なっておりますが、売上拡大に向けての新規事業や海外輸出関連に伴う事業構造の転換により、人員採用などの戦略的投資を積極的に実施しており、また、知名度向上のためのテレビ及びラジオCMなどの積極的な広告費の投入などの結果において一過性の減益となっておりますが、当年度内には改善する見込みであります。

以上の結果、売上高は13,390百万円（前年同期比10.3%増）、売上総利益は2,126百万円（前年同期比8.1%減）、営業損失は245百万円（前年同期は営業損失104百万円）、経常損失は226百万円（前年同期は経常損失98百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は265百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失132百万円）となりましたが、当第4四半期においては、粗利改善は確実になされていることから、更なる収益改善を行うことを目的として、今後は「自動車流通事業」をビジネスの基軸としながらも、リースバックを含む金融事業も新たなビジネスの領域とする3カ年計画を策定し、事業構造の転換を図ってまいります。

3カ年計画につきましては、2023年5月に公表する予定です。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は6,760百万円となり、前連結会計年度末と比べ、865百万円減少いたしました。その主な要因は、現金及び預金の減少52百万円、売掛金の減少1,179百万円、商品の増加378百万円などによるものであります。

負債合計は1,596百万円となり、前連結会計年度末と比べ、584百万円減少いたしました。その主な要因は、買掛金の減少564百万円などによるものであります。

純資産は5,164百万円となり、前連結会計年度と比べ、281百万円減少いたしました。その主な要因は、利益剰余金の減少310百万円などによるものであります。この結果、自己資本比率は73.7%（前連結会計年度末69.2%）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2022年5月11日の「2022年3月期決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,196,613	2,144,158
売掛金	1,521,039	341,565
商品	2,163,667	2,542,495
貯蔵品	502	525
その他	273,890	245,261
貸倒引当金	△541	△541
流動資産合計	6,155,172	5,273,463
固定資産		
有形固定資産	992,638	945,240
無形固定資産	68,559	127,490
投資その他の資産		
投資有価証券	58,898	62,113
差入敷金保証金	345,135	345,118
破産更生債権等	1,379	1,289
その他	16,004	17,411
貸倒引当金	△11,354	△11,264
投資その他の資産合計	410,063	414,668
固定資産合計	1,471,260	1,487,399
資産合計	7,626,432	6,760,862

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	721,252	156,541
短期借入金	560,000	560,000
未払金	213,701	183,155
未払法人税等	22,905	2,210
契約負債	226,958	235,796
その他	147,357	192,164
流動負債合計	1,892,174	1,329,867
固定負債		
預り保証金	10,875	8,475
リース債務	95,776	76,336
繰延税金負債	10,061	9,004
資産除去債務	169,529	170,564
その他	2,466	2,458
固定負債合計	288,709	266,840
負債合計	2,180,884	1,596,707
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,816,034	2,816,034
資本剰余金	846,636	846,636
利益剰余金	2,694,904	2,384,033
自己株式	△1,089,734	△1,076,287
株主資本合計	5,267,840	4,970,417
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	5,893	10,845
その他の包括利益累計額合計	5,893	10,845
新株予約権	2,710	2,710
非支配株主持分	169,103	180,181
純資産合計	5,445,548	5,164,154
負債純資産合計	7,626,432	6,760,862

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	12,136,993	13,390,493
売上原価	9,823,572	11,263,514
売上総利益	2,313,421	2,126,979
販売費及び一般管理費	2,417,979	2,372,589
営業損失(△)	△104,558	△245,609
営業外収益		
受取利息	1,361	1,168
受取配当金	1,279	1,348
受取保証料	1,546	1,151
金利スワップ評価益	127	—
為替差益	—	17,934
雑収入	7,497	4,373
営業外収益合計	11,812	25,976
営業外費用		
支払利息	963	1,814
支払保証料	3,296	1,285
為替差損	74	—
持分法による投資損失	425	1,737
雑損失	1,281	1,883
営業外費用合計	6,042	6,721
経常損失(△)	△98,788	△226,354
特別損失		
固定資産除却損	0	—
特別損失合計	0	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△98,788	△226,354
法人税、住民税及び事業税	30,891	29,190
法人税等調整額	2,772	△1,056
法人税等合計	33,664	28,133
四半期純損失(△)	△132,453	△254,487
非支配株主に帰属する四半期純利益	472	11,077
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△132,925	△265,565

（四半期連結包括利益計算書）
（第3四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）
四半期純損失（△）	△132,453	△254,487
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	982	4,952
その他の包括利益合計	982	4,952
四半期包括利益	△131,471	△249,534
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△131,943	△260,612
非支配株主に係る四半期包括利益	472	11,077

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、2022年6月15日開催の取締役会において、第三者割当による自己株式の処分を行うことを決議し、自己株式42,372株を処分いたしました。これにより、利益剰余金が3,513千円減少し、自己株式が13,513千円減少いたしました。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において、利益剰余金が2,384,033千円、自己株式が△1,076,287千円となっております。

（会計方針の変更）

（時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用）

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期連結財務諸表への影響はありません。

（セグメント情報等）

Ⅰ 前第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

当社グループは、自動車関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント		四半期 連結財務諸表計上額
	自動車流通事業	リースバック 関連事業	
売上高			
外部顧客への売上高	13,330,377	60,116	13,390,493
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	13,330,377	60,116	13,390,493
セグメント利益又は損失（△）	△297,470	51,860	△245,609

（注）セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失（△）と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、前第4四半期連結会計期間において、新たな事業である特別目的会社を活用したリースバック事業を展開しており、前連結会計年度より新たに「リースバック関連事業」セグメントを追加しております。これに伴い、より実態に即した名称にするため、従来の「自動車関連事業」から「自動車流通事業」へセグメント名称を変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報を当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分方法により作成した情報については、「リースバック関連事業」が前第4四半期連結会計期間より開始されたことから、開示を行っておりません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。